

第1回 地域福祉を考えるつどい

平成27年11月2日（月）14:30～

参加者：小口先生・金田先生・藤井氏・竹原氏・渡邊氏・尾崎(和)氏・辻井氏・池口氏
大西氏・小玉氏・尾崎(由)氏・今中氏・高田氏・中川氏・藤村氏・岡本氏

◆地域福祉活動計画策定委員会での議論を補足するため、策定委員の有志の皆さんに集まっていただき「地域福祉を考えるつどい」を開催した。

◆2つのグループに分かれ、それぞれの考える上牧の状況や課題について話し合った。

【グループ①】テーマ：問題を抱える高齢者

- ・高齢者の万引きが増加。そのなかでも認知症高齢者が多い。
- ・徘徊する高齢者。
- ・交通事故被害の増加。
- ・特殊詐欺被害の増加。→各家庭を訪問し、注意を促しているがインターホンを押しても出てきてくれない。→地域の希薄化。
- ・啓発の場に参加しない。→外に出ない高齢者をどうするか。
- ・孤独死
- ・精神的不安による救急の電話
- ・関わりのない住民同士での苦情トラブル
- ・高齢者が移動しにくい。
- ・上牧のまちづくり

→SOSをどう出しやすくし、どうキャッチするのか

【グループ②】テーマ：地域で気になること出来ること

■気になる！

○買い物難民

- ・近くにあったスーパーの撤退によって、買い物するにもバスなどを利用しなければいけない状況の地域がある。

○つどいの場

- ・近くのスーパーが撤退したが、以前は高齢者の憩いの場になっていたがそこに集まっていた人たちがどうされているか心配。

○お母さん同士のつながり

- ・この頃のお母さん達は公園デビュー出来ていない。
- ・幼稚園児を持つ若いお母さん達は交流が苦手である。
- ・昔子ども達はいろいろな年齢の子ども達と交流する場があり「群れ遊び」をしていたが今は故意に作らなければいけない。

■つながりの手立ては？

○地域の月1回の清掃活動（緑ヶ丘自治会の事例）

- ・頻回に行うことにより、新しい住民の紹介や顔見知りになるきっかけとなる。

○地域の核になる人が必要（友が丘の事例）

- ・地域活動を活性化させるためには、小地域ネットワークというような活動者が代わらない団体が必要。

○情報の共有

- ・自治会や民生委員、地域活動を行う団体同士での情報共有が必要。

○誰もがつどえる場

- ・地域によっては様々な勉強会を行う場もある。
- ・日本文化の伝承（お祭りなど）

○きっかけ

- ・養護学校の生徒が職場体験の一環として幼稚園の清掃に来る